

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2472500335
法人名	医療法人 西井病院
事業所名	グループホーム 西井
所在地 (電話番号)	松阪市曾原町813-1 (電話) 0598-56-7758
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 11 月 5 日(月)

## 【情報提供票より】(H19年10月10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	24 人	常勤 16人, 非常勤 8人, 常勤換算	23.4人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~60,000 円	その他の経費(月額)	6,900 円~
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500円		

## (4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	9 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	名
年齢	平均 87 歳	最低 81 歳	最高 95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西井病院 介護老人保健施設カトレア 大森歯科
---------	------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一運営者による病院、デイサービスが併設された事業所であり国道に面しているが、付近は静かな場所である。デイサービスの二階にあるグループホームの内部は2ユニットが行き来出来る様になっており、管理者及び夜勤の人も両方に目が届く構造に出来ている。職員は比較的中年の方が多く、落ち着いた口調で全体に「ゆったり」とした雰囲気を感じられた。利用者はシルバーカー及び車椅子を使用していない方が3名のみで、平均年齢も87歳とやや高いが、それぞれのペースで過ごされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価に於ける「要改善」項目は無かったが、利用者のペースの尊重について、業務を進めていく過程で今一度見直しがされている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価に取り組む中で、各項目にそって文章化して表現するのが苦手という意識はあるが、全員で日常の業務を振り返りながら実施している。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議の回数は少ないが、幅広い人達の参加を得て昨年の法改正に伴う「運営理念の見直し」等についての意見を聞いたり、防災についての意見を聞いたりして、事業所としての判断材料としている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が訪問されて聴いた話を、朝の申し送りの時などに職員に伝え水 平展開が図られている。一人ひとりの介護計画に基づくケアーでの変化点等の詳細について、職員が家族に報告しているかについては管理者、計画作成担当者は確認していない。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 以前から自治会に運営者が入っており、地域との連携は出来ている。利用者一人ひとりが地域の一員として交流、参加する事については、今も模索中である。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当初からの理念が継続されている。法改正に伴う見直しについては職員や運営推進会議などで意見を聞き、従来の理念を継続して更に、地域との交流を意識した取り組みをしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「自分らしく暮らし続ける事を支援する」という理念の基、利用者や家族の希望に応じ日々実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が自治会に入っており、地域との連携は密である。利用者は散歩の時など近所の人と話したりして交流しており、イベントにも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組む中で、各項目にそって文章化して表現するのが苦手という意識はあるが、全員で日常の業務を振り返りながら実施している。職員の意識の中では、「もっと利用者の自己決定を強めたい」との気持ちが有り、支援の中で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は昨年12月以後今年7月まで開催されておらず積極的な取り組み状態ではない。会議内容は「理念の見直し」や「防災について」の意見を聞いて反映されている。会議の出席者については同一人物で良いかなど思案中である。	○	運営推進会議は2ヶ月に一度位を目途に開催出来る様にして、その都度「テーマ」を決めて進めるなど積極的な推進が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認定の申請時等に訪れ担当者と話しているが、担当者が事業所に来る事は無い。電話でのやりとりが主体である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の「グループホームだより」を発行して送っている。又家族の来訪時には、利用者の様子について担当の職員が話しているが、アセスメントに基づく介護計画の実施状況などの詳しい内容について、職員が報告しているかについては管理者及び計画作成担当者は確認していない。	○	家族の知りたい事は全体の様子だけでなく、自分の家族の体調や希望に対しての詳しい状況だと思われるので、身体の変化や出きる事の様子等を職員が話しているかについて、管理者は確認して欲しい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内には意見、苦情等が表せる窓口が明示されており、家族の来訪時に職員が聞いた話しは朝の申し送り時に水平展開されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	従来はユニット毎に職員を配置していたが、夜勤者は一人の為利用者や職員にとまどいがあり、全員が2つのユニットで支援する事に変更されている。職員の精神的な負担は増しているようであるが、最近では利用者も馴れてきている様子である。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修等には交替で参加し、他の職員には水平展開されている。職員の段階に応じたスキルアップの為の研修計画は確認出来なかった。	○	職員の「やりがい」や「スキルアップ」の為にも段階的な研修計画と実施が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会に参加しており、一部職員は他のグループホームも訪れ交流している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスを利用しその後馴染みが出来てからグループホームへと移行しているケースと、家族が来訪して利用者が一度体験の後サービスを開始する等工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「頼られる事」での「やりがい」を感じ支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本情報「私の基本シート」「私の暮らしシート」に基づき本人本位に検討し支援している。」		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	最初のフェースシートに基づき、3人の計画作成担当者が話し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回の職員会議で話し合い、基本的には3ヶ月に一度見直しされているが、当初の介護計画書と日常の支援に基づく見直した介護計画書との連動が確認出来なかった。介護計画書には管理者、作成者のサインも無く共有されているかについても確認出来なかった。	○	見直しされた計画書の連動性について管理者も含め確認して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	専門病院への送迎や外泊時の送迎等職員が同伴して支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科が専門の病院が併設されており、利用者は安心して納得している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	元気な人が多いので、終末期のあり方については家族と具体的に話していない。	○	家族と事業所側との考え方や意向がずれたまま、重度化の時期を迎えることの無い様、できるだけ早期から話し合いの機会を作り方針の統一をはかっていく事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常の支援の中でも「強い口調で言わない」など、さりげなく対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	節度と団体生活をかみ合わせた考え方で、一人ひとりの希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		○食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けの出来る方は一緒にしている。殆ど全盲に近い方には職員が就いて支援しているが、他の職員は一緒に楽しみながら食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援			
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を嫌う利用者も居るが、週2回は入る様になっている。入浴順序は利用者の要望を取り入れ、毎日順番を決めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、絵画、ちぎり絵、畑仕事など生活歴、趣味に合わせた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援			
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	重度の方(介護5)も含め、毎日朝食後散歩し外気に触れる様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践			
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出入口及びエレベーターは自由に出来る様になっているが、2階に有る為か外に出ようとする利用者はいない。職員も目を離さない事がグループホームの原点である事を認識している。		
27	71	○災害対策		○	
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震対策のマニュアルが有り訓練も実施されている。建物が予想される震度に耐える様になっている為か職員は安心している。火災についての対策は充分でなく、避難所、避難地の場所、避難道路についての確認がされていない。		火災に対する対応について、夜間対応も含め職員の不安を少しでも軽減する為にも全員で検討して欲しい。避難地、避難所及び避難道路についても車椅子対応も含め確認して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士の有資格者がおり、栄養バランス、カロリーについて確保されている。水分量については、膀胱炎などチェックを必要とする利用者については管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下などの空調設備は完備しており、季節感を取り入れた利用者の協働作品のちぎり絵などが飾られ、居心地よく過ごせる様工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれ利用者の意思により、仏壇、神棚、写真、テレビなどが置かれ、好みに応じた対応がされている。		